

令和7年5月28日

学園関係各位

学校法人 木村学園
理事長・学校長 木村 誠

令和6年度（2024年度）
学校法人木村学園事業報告書

【はじめに】

日本経済は回復基調にあるものの、弊学園をはじめとした専門学校を取り巻く教育環境は昨今の大学理系学部学科の急増により、ますます厳しくなっております。このような中、弊学園は来年記念すべき栄えある創立80周年を迎えることになります。創立者 木村 實 先生が弊学園を創立した理念である校訓「人技両立」の精神を堅持しつつ、社会が求めるエンジニア養成の使命を果たすように全教職員一致団結して邁進する決意を新たにしています。

また、こうした激変の時代を乗り越えるべく、世代交代を図り新しい時代にふさわしい次世代体制構築をしっかりと着実に実現すべく一意専心してまいります。

どうか今後とも変わらぬ温かいご支援、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

【教育改善】

弊学園は次世代の教育活動の高度化のため、「K.I.S.S.」の構築をもって、学生のオンライン教育をはじめとするITテクノロジーを用いた教育の充実を図り、校内通信環境をさらに向き上げさせ、次世代のネットワーク環境の構築を図るべく努めてまいりました。その一環として、校務パッケージの「InfoClipper」を導入し、校務の効率化を図りました。次年度も引き続き運用の中で改善点を洗い出すことで、更なる効率化を実現していきます。また、AI・ロボット・IT技術をすべての学科において様々な形で学べるように、3学科の教育カリキュラムの改善・再構築を行いました。職員の研修については、AIに関連する研修の受講や、実践的教育を行うにあたって各学科の特性に応じた研修の実施、また、これまで外部に依頼していた救命講習を学園教員が実施できるように、大阪市応急手当普及員講習の受講などを通じて、教育の質の向上に努めました。職業実践専門課程認可学科では、企業様や各学科の顧問とのご協力により、さらなる実践技術教育のレベル向上を図りました。連携企業を増やすべく取り組んだ結果、電気設備科において電気工事現場の学生見学を、試験的にではありますが1名のみ実施することができました。教育の質向上を目指し、専門人材のさらなる獲得、教員の採用も行われました。また、「学生が全員資格を取得する」という目標を現在掲げておりますが、認定学科における全員資格取得が完了しました。さらに、上位資格については100%の取得には至っていないものの、業界関係者より学生の合格率について高く評価いただく成果となりました。出前授業に関しては今年度成果はありませんでしたが、引き続き地域社会との連携も含め慎重に検討していきます。今後も学生一人ひとりの成長と社会で活躍できる実践力の育成を目指すとともに、地域社会とのつながりに関しては、産業界との連携をさらに強化しながら、教育環境の整備と指導体制のさらなる充実に努めてまいります。

<情報エンジニア科>

学生募集につきましては、昨年度の低迷、日本人の専門学校IT離れの中、留学生とデザイン系を中心に学生訴求を実施し、修学支援の条件を満たす学生を入学させることができました。特に、留学生とWebデザインが増加しております。来年も大学の新生学部・学科の台頭によって、この傾向はさらに顕著になることが予想されるので、本校のカリキュラムと学生ニーズの乖離点を探求・深化し改善することで学生確保を目指します。職業実践専門課程の認可につきましては、IT系とデザイン系の2本柱のコース統合案を計画しました。これにより2コースに常に卒業生がいれば職業実践専門課程の認可がいただけるコース編成になります。次の目標は実際にコース統合を申請することになります。全員就職につきましては、卒業生に対し、就職希望の82%が就職し、その内、留学生も全員就職できております。次年度も全員就職を目指し、早期から就活を開始したいと考えております。全員資格取得につきましては、基本情報技術者

試験を目指しておりますが、学生には少しハードルが高く、その前に、学生に自信をつけることを目的に情報検定（J検）を受けさせることで、1年生全員進級の段階で、資格取得率100%が完了しています。資格に対してモチベーションが低い学生に対し、資格は就職に繋がることを認識させる啓蒙活動を実施し、少しは浸透してきたと考えます。さらに、基本情報技術者試験も取得可能性がある学生がいるので引き続き指導していきます。次世代教育につきましては、K.I.S.Sの取組として、PC教室を改善することで、学生数の増加を目指しております。今までのPC教室とは異なったコンセプトによって、学生にアピールできる教室としたいと考えております。例えば、PC教室にVR環境の設置を考え、学生の修学意識が高まるよう検討を重ねました。学生が興味があることを中心に、学生の夢をかなえるPC教室として次年度改修を計画しています。教育体制強化の教員の確保につきましては、新たにプログラム関係を教えられる教員を常勤として迎えIT教育環境の基盤の強化をおこないました。これにより、学生のフォローが確実にできる環境となり、学生の安心感向上や、保護者への信頼感向上に繋げていくことで、より一層の学生確保に繋がります。またAI関係の授業も現在準備中で「人×AI×ロボット」教育の更なる推進につなげます。AI教育につきましては、主にAIを活用できる人材育成を目指しております。現在は外部講師と専任教員の2授業でしたが、今年よりもう2つ増やすことで強化しております。さらに、専任教員が研修等受講しスキルアップすることで、本校のAI教育を充実させていきます。情報エンジニア科については、IT系は日本人が大学偏重で留学生へシフトしていく、日本人は大学を目指さないクリエイター志望の学生を対象とした他校にはないデザインコース設置を目指しております。その取り組みの一つとして、デザイン系は資格と就職のことを考え、女性専任教員を中心にWebデザインをメインとしてカリキュラムの編成を考えました。こちらはコース統合に合わせてデザイン系の見直しを進めています。河原教授とのコラボにつきましては、学生や保護者に本校の信頼度を向上すべく、外部顧問として現役大学教授より、教育課程編成委員会委員の立場から専門的な助言をいただいております。但し、本年度は本校の準備不足のためAIについて十分な深化できていないことを反省し、今後は、チャットボットをはじめ本校のAI教育の取り組みに積極的にご参画いただき、学生交流や、講演会、公開授業等にもより深くかかわっていただきます。

<電子工学科>

学生の関心が高い「ロボットコース」と「家電サービスコース」を中心に、より多くの高校生の興味を引き付け、学生確保を目指してまいりました。ロボットコースでは、外部企業との連携によるロボット製作を通じて、学生と共にゼロからの開発に取り組んでおります。実習では、Arduino制御、センサー技術、IoT技術など多岐にわたる技術に触れ、実践的なスキルを身につけております。家電サービスコースでは、サービスエンジニアに必要な機器や工具の充実を図り、カスタマーサービスエンジニアに求められる技術と知識の習得を目指してまいりました。家電製品のメンテナンスや修理の実践を通じて、現場で即戦力として活躍できる人材の育成に努めております。ドローンに関する科目も開設し、今年度より教育を開始しております。資格取得については、認定資格を除き、2名の学生が第一種および第二種電気工事士の資格を取得いたしました。今後は、全学生の資格取得を目標とし、これらの資格に加えて第一級および第二級デジタル通信の資格取得に向けた指導を強化してまいります。これにより、学生が就職活動においてより有利に臨めるよう支援してまいります。施設・設備面におきましては、実践的な教育のためにAI対応PCや最新家電機器を整備し、学生が安心して学べる環境の構築に取り組んでおります。今後もハードウェアとソフトウェアの両面から時代に即した実践力を育む教育を通じて、電子工学科の魅力を積極的に発信し、より多くの高校生に興味を持ってもらえるよう学生募集活動を一層強化してまいります。関西地域を中心に、産業界や地域社会との連携を深めながら、電子工学科のさらなる発展と、次代を担う技術者の育成に全力で取り組んでまいります。

<電気設備科>

全員資格取得については現在2年生については全員認定をクリアしました。さらなる上位資格に対して12名中9名が第一種電気工事士の合格となりました。AI・ロボット分野の技術を電気設備科でも学ぶというのを目標として掲げておりますが、今年度もドローンの操縦訓練を実習に取り入れました。学生からの反応としては非常に興味を持って取り組んでくれていまし

た。また、内容もドローンの知識面と実習面を強化し、教育の質向上を図りました。モデルハウスの建設については、現在建設の見込みは立っておりませんが、それを補えるように電気設備科の実習として、石膏ボードに穴を開け、コンセントを取り付ける実習や、第一種電気工事士試験合格者に屋内で工事ができる資格を取得させ、実習室天井の照明器具を取り換える実習を行いました。人技両立の人の面に関しては、救命講習、低圧電気取扱者特別教育、人権教育などにより安全面や電気工事工業組合様との交流会により、電気工事業界人としての意識の向上を図れるような教育を行っていました。無人航空機の養成講座については検討の結果、収益性の観点から現在見送りとなっております。また、ビジネスマナーについての講習など社会人として必要な教育のレベル向上を図ることができました。また、2月に電気工事会社様のご協力の元、1名の学生に対して試験的に現場見学を体験させることができました。製図への3D-CADの導入について検討を続けていましたが、現在は3Dモデルの紹介と簡単な操作に留まっているところです。現状の授業時数では無理な詰め込みが難しく、慎重に検討中です。柔軟な導入方法を検討し、授業の中で可能な限り3Dに触れる機会の増加を目指します。

【学生確保】

本校は、校訓「人技両立」の精神を基盤とし、新たに「人×AI×ロボット」という教育コンセプトを学校PRの柱に据え、広報活動を展開してまいります。学生募集の環境に目を向けますと、18歳人口は2025年から2027年にかけて約100万人で推移するものの、2028年以降は減少傾向に転じることが予測されており、厳しい状況が継続する見込みです。加えて、大学においては文系学部が理系分野やデータサイエンス関連学部を新設する動きが活発化しており、高校生の大学進学志向が一層強まっています。このような状況下で、当校はまもなく迎える創立80周年という歴史と信頼性を強みとし、数ある専門学校の中でも独自の魅力を持つ学科・コースを積極的にPRすることで、他校との明確な差別化を図ってまいります。広報戦略としては、大手広告代理店との連携を通じて、より多くの学生に当校の情報を届ける機会を創出し、認知度の向上を強化します。同時に、日常的な情報発信はウェブサイトやSNS（Instagram、X、Facebookなど）を効果的に活用し、迅速かつ正確な情報提供に努めます。また、学生の興味や関心を深く理解するために、学校説明会や高校訪問、学外ガイダンスなどの場を積極的に設け、直接対話を通じて「生の声」を丁寧に向かい、一人ひとりの希望に寄り添えるよう尽力いたします。加えて、80周年記念事業の一環として、学生と共にロボットの製作を開始いたしました。本ロボットを、本学の特色や学びの魅力を広く発信するための象徴的な取組として位置付け、更なる学生確保の礎となることを期待しております。経済的支援に関しましては、弊学園は国の高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と給付型奨学金）の対象校として認定されております。さらに、従来から独自の学費減免制度の充実を図ってまいりました。今後も、これらの学園独自の経済的サポートを通じて、意欲ある優秀な学生の確保に努めてまいります。

【学生指導】

4月に服部緑地でBBQを実施し特にクラス内を中心にコミュニケーションを取りました。10月にボウリング大会を実施し、教員チームを中心に他のクラスや教職員ともコミュニケーションを図り、ルールやマナー教育も行うようにいたしました。また7月、12月、2月の学期末パーティーでは、7月は2年生のクラス中心で、12月と2月は1年生のクラス中心でパーティーを進行することで、主体性や責任感を少しでも養うことが出来たと考えております。防災面では、4月と9月の避難訓練を通じて、災害発生時に学生や教職員が取る行動について指導及び確認を実施。また3月には防災マニュアルの更新や防災用品の保存期間等の確認を行い、期限が近いものについては入れ替えを実施しました。今後も更なる防災用品の充実に努めていきます。また人権問題の取り組みといたしまして、6月に法務省関係の人権啓発動画を全教職員が閲覧を実施することで人種、性別、宗教、障害の差別や、ハラスメントに対する研修を実施。更に10月には発達障害研修に参加し、参加した教員より全教職員に対し研修を実施することで、本校に通う学生のみならず、オープンキャンパスに参加する学生に対しても人権問題を意識して対応するようにしております。

【就職】

就職面では、全員希望先就職達成を目標に、特に、留学生と情報に注力しました。結果として、全体で109社、一人当たり3.8社を受験し、全卒業生の88%を就職させました。就職課ポータルを設置することでDX化を推進しており、今後は生成AI等を活用することにより、学生にとって、就活を便利に効率化することで、早期内定を目指します。専門学校としての職業実践を見据え、電設を先行して現場実習が行えるようにしました。今後は電子・情報も学園と企業で調整していき企業連携のしくみを確立させます。

【外国人教育】

日本人学生の大学偏重により、留学生の増加させることで学生確保せざる負えない状況です。それには、就職実績と日本語教育機関としての認定が必要となります。留学生確保につきましては、留学生イベントの参画、日本語学校訪問等を実施し、日本語学校や留学生における本校の認知度を向上し、国費2名を含む13名の留学生を入学させました。就職実績は、電子3名、情報1名の留学生を就職させました。また、日本語教育機関の認定につきましては、体制強化として積極的に人材募集を実施してまいりましたが、適切な人材確保はできませんでした。今後も日本語主任教員、および留学生対応職員を積極的に登用し、学園で日本語教育が行える環境構築を進めます。

【総務事務】

2026年に迎える創立80周年を見据えこの節目を飛躍の機会とし、さらなる成長を遂げるべく、学園運営の発展と基盤強化を目指して、さまざまな取り組みを推進してまいりました。教職員が主体となって構想する「iSchool」および「MySchool」制度の支援を継続するとともに、ドローン事業や国際交流事業の実施・定着にも注力し、80周年にふさわしい新たな学園づくりに向けた着実な歩みを進めてまいりました。

また、関西を代表する専門学校としての地位を一層強固なものとするため、優秀な教育人材の採用と育成に力を入れ、教職員の資格取得支援を通じて、次世代を担う高度な専門性を有する人材の確保と定着を図りました。職場環境の整備においては、事務室の改装やLED照明化、防災設備の更新などを実施し、新たな時代にふさわしい職場づくりを推進しました。さらに、若年層の積極的な登用としてキャリア採用を行い、将来の学園を担う人材の確保を進めるとともに、長期的な雇用を見据えた賃金体系の見直し、福利厚生充実、評価制度の再構築に取り組み、教職員のモチベーション向上と働きやすい職場環境の整備を図りました。

「正確・迅速・円滑・安全・節約・整理整頓」の基本6Sの方針のもと、校務処理のDX化・IT化を積極的に進め、新たに学籍管理システムを導入することで、業務の効率化と運営経費の抑制の両立を図りました。資産運用においては、安全性を最優先としつつ安定した運用益の確保に努め、その成果は教育環境の改善や80周年記念に向けた施設整備、具体的には教室の改修や火災受信盤の更新などに有効活用しております。

学生支援体制の強化については、引き続き高等教育修学支援新制度の対象校として、学園独自の学費減額制度および日本学生支援機構の奨学金制度を活用し、学生の経済的負担軽減を図りながら、安心して学業に専念できる環境づくりを推進しました。さらに、IT教員を中心としたK.I.S.S.構想に基づき、校務の一元管理を可能とするマネジメントシステムの導入準備を進めるとともに、情報セキュリティの強化を図り、学園全体のデジタル基盤整備を進めております。

以上